

「聴き従うことは、いけにえに勝る」

～頑なに注意～

ヘブル人への手紙3：7～19

■ 聴き従う

私達は、大切な事を聴かず、それ以外の事をがんばることで、大切な事をおろそかにしていることを忘れようとしません。「荒野での試みの日に御怒りを引き起こした時のように、心をかたくなにしてはならない。(ヘブル3章8節)」「聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありませんか。(ヘブル3章16節)」

イスラエルの民がかたくなになった。なぜあれほどまでに神様は怒ったのか。自分の父がアブラハム、イサクの時にどのようにしてくれたのか。ヤコブの子ヨセフがエジプトに奴隷として売られていって、奴隷として正しく行うことであのききんから救われた。にもかかわらず…。本当は感謝し合う関係にも関わらず……。「感謝は、バラの花のごとく、忘恩は、雑草のごとし(D・カーネギー)」バラは、とても手間暇をかけて美しい花が咲く、同様に感謝の心が育つのも手間隙がかかります。しかし、恩を忘れるというのは、ほおっておけばすぐ忘れてしまう雑草と同じようだからです。

■ あなたの願いは何ですか

人生の目的が地位や名誉、お金や家を建てること…。それは何なのか。持つこと(Having)は願いではない。それは欲望。それは第三者と比較して、そていされたもの。側面であり、外的なもの。「こうありたい。」は内的要因であり、内的要因が整うことは、もうすでに約束された外的要因が与えられている。イスラエルの民が心をかたくなにしたのは…。自由というBeingから食べ物というHavingになった。あなたの大切なもの、本当の自分をそこなわせていく。あなたの中にいるあなたじゃないあなたは、破壊、分裂、怒り、ねたみをもたらす。神様が創ったあなたではない。そのあなたと戦う決断をする。武器

も全て主が備えてくださる。「神の国とその義とを第一に求めなさい。そうすればそれに加えてこれらのものは、全て与えられる。(マタイ6章33節)」その願いは、誰かの為のねがいではないといけない。その感情を誰かの為に用いるとあなたの願いもかなうのです。

■ 裁くべからず

裁く心を持っていると神の時を逃します。なぜ裁くのか。あなたが神の立場になるからです。それは偶像礼拝です。決めつけ、あの人は～だから。など、正義を人に振りかざしたら罪人。正義は、自分に対してするもの。人を裁いてはならない。「ですから、すべて他人をさばく人よ。あなたに弁解の余地はありません。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。さばくあなたが、それと同じことを行っているからです。(ローマ2章1節)」

■ 聴くだけから行う決断を

神は40年の間、誰を怒っておられたのですか？罪を犯した人々、しかばねを荒野にさらしたあの人達ではありませんか。その不信仰とは彼らは自分を保つ事をせず、物理的なものに目を向けていった。私が私である事を熱心に求め、本当の自分を保ち、自分をコントロールしましょう。イエス様は、偽りのあなたを背負って十字架にかかり死んでくださりました。神の時を逃さないよう、魂の管理者となり、1秒1秒命を刻む時を大切にしていきましょう

(要約者:小根久保 麻由美)